

小径も道も森も草原も。すべてが白い雪に覆われた。この日予定の個人戦は中止となった。

2012年3月24-25日 長野県駒ヶ根市
全日本高等学校・中学校
オリエンテーリング選手権大会

団体戦結果

ME

- 1 東海 A 1:47:45
角田貴大-平原誉士-坂野翔哉
- 2 桐朋 A 1:48:28
久保田皓貴-坂梨敬哉-澤口弘樹
- 3 東海 B 1:49:01
光川凌-横江薫-浅井迅馬

JME

- 1 東海 B 1:38:43
二村真司-三浦一将-長谷川望
- 2 東海 A 1:43:03
種市雅也-稲森剛-大久保雄真
- 3 桐朋 A 1:57:13
柴沼健-山川登-白井敏

雪中中止の個人戦

「本日の競技は中止します」
会場に到着してしばらくのち、競技の中止が正式に伝えられた。

2012年3月25日(日)、インターハイ併設大会に参加するためにやってきた駒ヶ根高原はすっぽりと雪の中にあった。だが実は雪が降っていたのはここ駒ヶ根周辺だけである。

朝に長野県松本市の自宅を出た時は晴れていた。テレインまであと15kmというあたりで天候は急変。そして長野県駒ヶ根市にはどっさりと雪が積もっていた。実に不幸な天候だった。

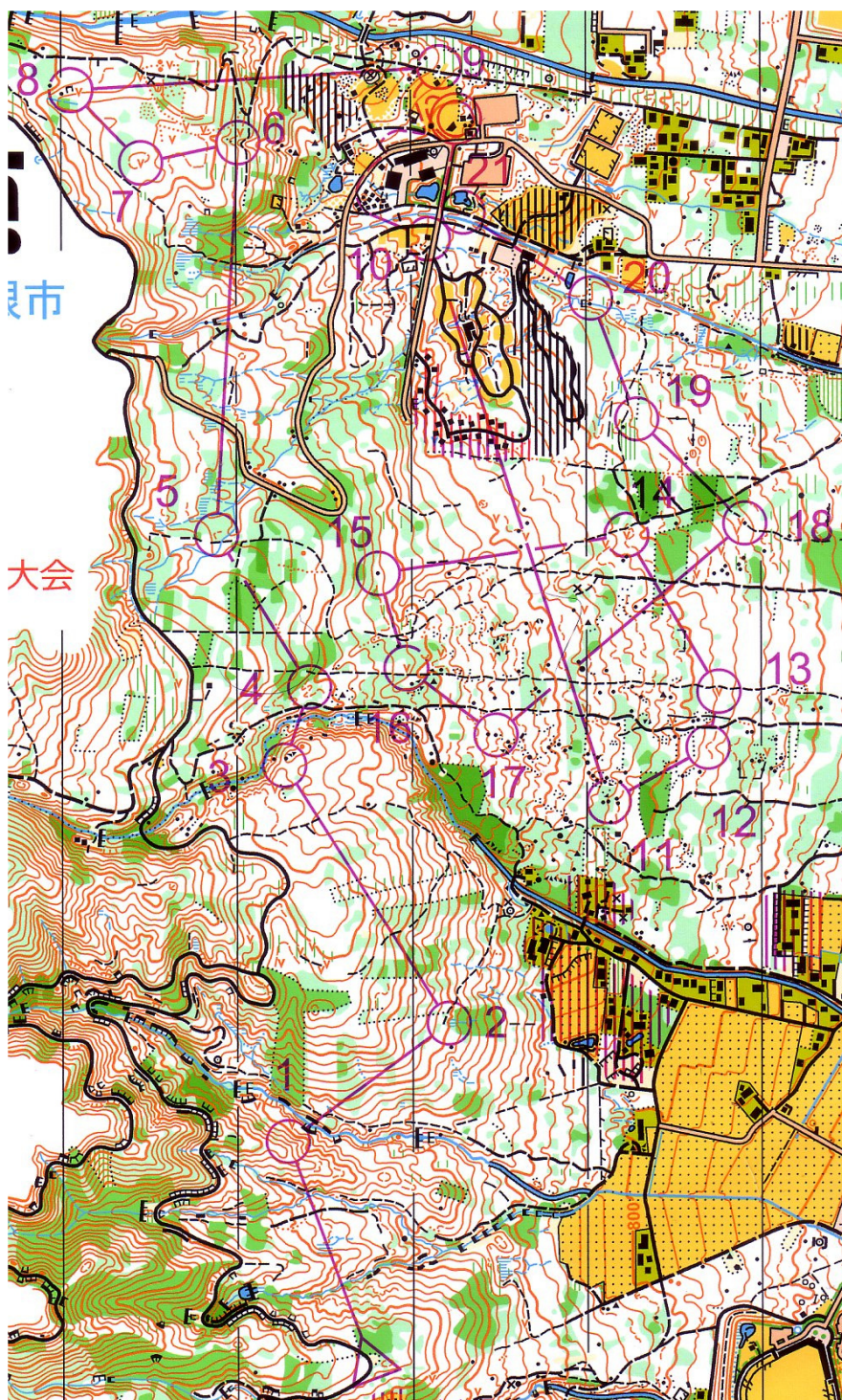
苦渋の選択

「無理すれば競技できるかな？」とも思える降雪量だったが、テレイン内部の様子を視察し、参加学校の顧問と協議した結果、実行委員会は個人競技の中止を決定した。

私は実行委員会の判断を評価したい。

全員が未成年である高校行事や中学行事で生徒の安全を確保することは最も重要であるからだ。高校生や中学生の保護者たちも充分納得できる判断だ。

運営者の主力は若い高校OBである大学生オリエンティア。彼らが後輩であ



幻となったインターハイ 2012の個人MEコース

る高校生、中学生のために、より良い競技環境を求めて長野県にまで足を伸ばして開催したインターハイ。だがその選択は裏目に出てしまった。運営者たちはさぞ悔しいだろう。

前年度のインターハイは東日本大震災の影響を受けて3月中の開催は中止

となり、1か月遅れて、全日本大会に併設する形でインターハイが行われた。生徒の1/3はすでに卒業してしまった中でこのときのインターハイは行われた。それだけに今回のインターハイは無事全種目を開催したかっただろう。

(木村佳司)